

大正十一年
三月號

界

天

第一



第十六號

内 容

渦狀星雲の内部運動

星雲の話 (寫眞數葉入)……………四七

京都天文臺 古川 龍城

メシアの星雲星團表……………五二

ヘリウム……………五四

ロンドン A. S. ラツセル

『三つ星』……………六二

マスタート・オプ セオロツシー 高松 孝治

雜報 天文協會のボツダム會議……………六四

報 J. ステビンズ氏……………六四

質 疑 (四件)……………六五

▲奇抜な火星觀測法……………六五

同好會報……………六六

三 月 の 天 象

太陽 六日午後五時半、啓蟄。

二十一日午後七時、双鱼宮より白羊宮に入る。春分。

月 七日午前四時半、上半月(牡牛)の南(五度)

十三日午後八時、満月(獅子座の北)

二十日午後五時半、下半月(射手座西

西北端)

二十八日午後十時、新月

水星 始終、曉天の星で太陽より一時間以上先んじて出現するが、低くて觀望困難。十三日、東へ最大隔離

(太陽から二十七度半)

金星 宵の星ではあるが、毎夕太陽と殆んど同時に没する。

火星 蛇遺座を順行、夜半宙天に出現。だ

いぶ近くはなつたが距離は去だ一倍五千

萬キロ。視直徑九秒、光輝○等。

木星 乙女座のγ間を逆行。日没後に出現。だんぐ距離と近づき光りも大きい。觀測頗る好し 視直徑四

十秒。

土星 乙女座γの西を逆行。二十

六日は衝で、距離は十二億八千

キロ。視直徑十七秒。光輝○、七等。

觀測の最好期

天千星 先月末に合を過ぎたばかり、觀測不能。

海王星 蟹座π星の北を逆行中。距離は例

よつて遠いし、光りも薄いけれど、一

時以上の望遠鏡があれば觀測には

好都合の時機である。

會 告

三月例会 來る三月二十一日(祭日)午後三時

京都帝國大學集會所 (吉田町田中通近衛上ル、電車は熊野神社前にて下車、北へ五丁) で開會、左の講演があります

『太陽の運行』 助教授 山本 一 清氏

右

大正十一年二月二十日

天文同好會

御 注 意

本號には第一巻目錄及總索引を附録として添へる等の處、編輯部多忙のため、次號へゆづる。

天文語彙は休み。

豫 告

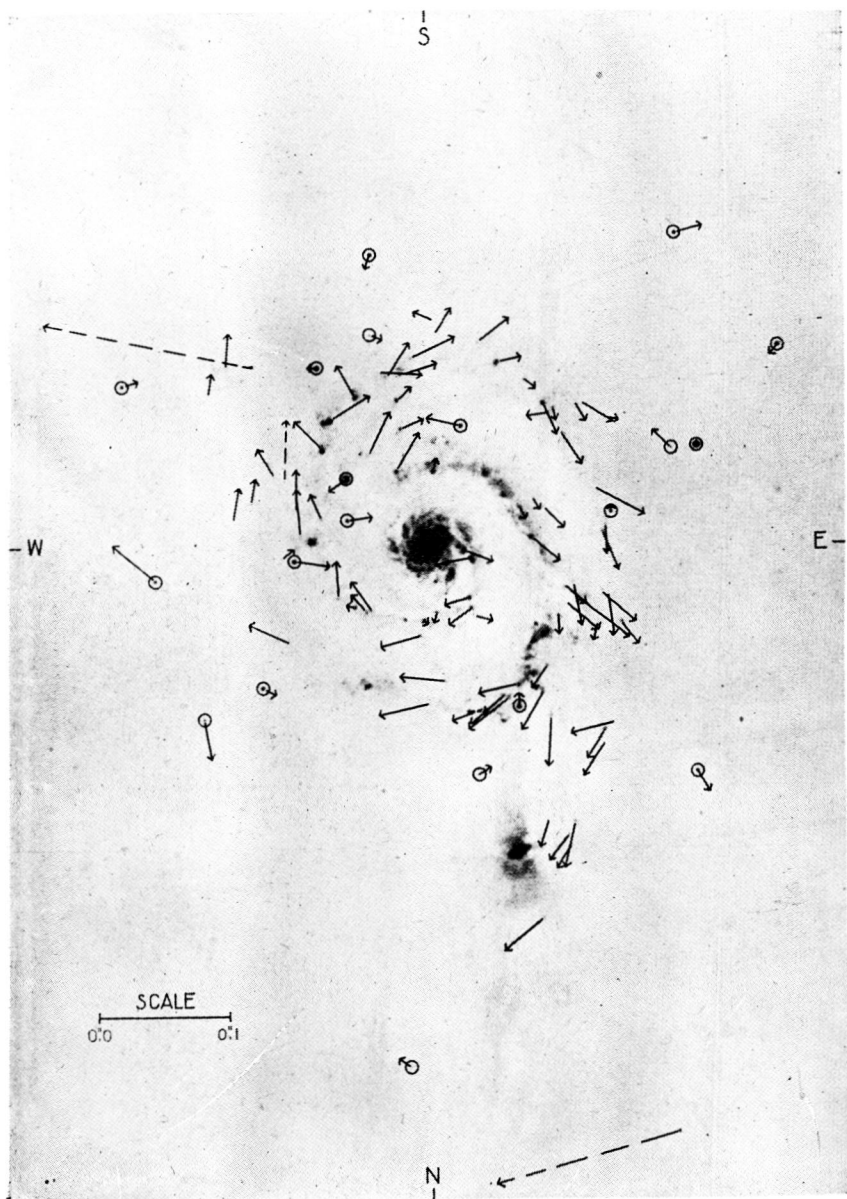
次號(四月號)は火星觀迎號で要目は左の通り

- 火星を紹介す……………山本助教授
- 火星の運動……………百濟理學士
- 火星の受くる日光の恵み……………古川龍藏氏
- 火星を觀る人々に……………ピケリング教授

Contents of THE HEAVENS No. 16.....edited by I. Yamamoto.

Internal Motions of a Spiral Nebula (Frontispiece).....*R. Furukawa*,
 Stories of Nebulae.....*Messier's Catalogue of Nebulae and Clusters*.....*A. S. Russell*, Helium.....*T. Takamatsu*, "The Three Stars".....*Potsdam Meeting of the Astronomische Gesellschaft*.....*Mr. J. Stebbins*.....*Letters*.....*Queries*.....
 Reports.....*Notes*.

Published by The Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Observatory.



動運部内の雲星状渦

觀測部設置

單なる星の眺めより一步進んで研究的貢獻をなさんため、本會は觀測掛指導の下に來る十二月から

(一) 流星部 部長 中村 要氏
 (二) 變光星部 部長 山本一清氏
 の二部を置き、會員中の熱心家を募つて部員とします。部員は部費として一ヶ月金五拾錢を納める義務があります、其の代り、實際觀測上、部長の熱心な指導を受け、又必要なる印刷物品を給せられ、尙無代で

ブレットン (Bulletin) — 不規則な發刊物

の配布を受ける特典があります。此のブレットンは天界の發行を待てない至急報で必要に應じ月に幾度でも發行し、流星や變光星のみならず、彗星の發見や、遊星恒星の實際觀測や、尙其他、學界の最近消息を傳へるものであります。但し此のブレットンは全部英文でありますから、部員は其の資格として中學第三年級程度の英語を卒業したものでなければなりません。(若し觀測部員でなく、ブレットンを讀みたい人は、やはり毎月五拾錢を拂つて下さる必要がありませう) 希望者は往復ハガキで申込んで下さい。

大正十年九月二十五日

天文同好會

LATEST K. U. O. BULLETINS PUBLISHED

No.8. (22. Jan., 1922)

Observations of the Quadrantids. (龍座流星群の觀測)
 Nakamura's Variable. (中村變光星)

No.9. (25. Jan. 1922)

A Large meteor (大流星)
 U Geminorum (双子座U星) UV Persei (ペルセウス座UV星)
 X Leonis (獅子座X星) SS Aurigae (馭者座SS星)
 Fujii Observatory active (藤井天文臺の活動)
 Ephemeris of Algol (アルゴール星の豫報)

No.10. (8. Feo., 1922)

Monthly Reports of the Sun-Spot Observations (January)
 太陽黑點觀測月報 (一月號)
 SS Cygni bright (白鳥座SS星の増光)

No.11. (16. Feb., 1922)

Rapid Activity of Sun-spots (太陽黑點の急激な活動)
 Mr K. Nakamura. (中村要氏消息)

No.12. (21. February, 1922)

On Mr Inouye's Shower. (井上氏の流星雨について)
 Prof. H. Kimura. (木村榮博士) Prof. Sh. Hirayama. (平山信博士)
 On Omicron Ceti. (鯨座 σ 星について) 16 Ceti (鯨座16番星)

Published by The Society of Astronomical Friends,
 Kyoto University Observatory.

殘部あり、前月發行のものは 同好會員に限り 每號金五錢で配分す

京都大學天文臺内

天文同好會發行

編輯室より

今日の天文學は單に星の位置や運動を問題とするばかりではなく、純粹な物理や化學の中へも喰ひ入つて、物質構造の根本に觸れます。此の號に載せたラッセル氏のヘリカムに關する講話は特にこうした意味のあるもので、「天界」としては今までに見慣れなかつた新記事であります。ヘリカムは太陽の物理、恒星や星雲の物理に關係する一方、化學上の新問題に觸れ、又、あらゆる物質の原子構造論にも意味の深いものであります。そして此頃は又、航空工業にも必要なものとなりました。いろんな方面に向いてある要點が此の一文に巧みに取り扱はれてゐるのは見逃がされません。譯者長澤氏の勞に謝意を表します。▲古川氏の星雲の話は御手のもので、今贈と推奨する必要はありますまい。其の文の終りにあるメシアの星雲星團表は、いつまでも役に立つ貴重な表です。メシア表の中の星雲や星團はこれ等の天體中の最も雄大な代表者を殆んど全部網羅してゐます。そして星雲や星團に關する新研究や新発見は、いつでも先づ此のメシア表の中にある此等のものについて行はれるのです。シヤプレンの星團論にしても、マーネンの星雲運動問題にしても皆それです。何はともあれ、此の百三個の天體の位置は誰でもが

覚えなければなりません。古賀恒星圖には此れが全部記入してあります。又、此等の星雲や星團は三吋望遠鏡で皆見えます。昔、メシアは彗星搜索の際の手法として此の表を作つたのだといひます。彗星が見るとそれが星雲であつたりして間違ひが起り易いからです。今日もやはり同じ意味で、此等の星雲や星團は記憶するべきものです。▲或る日の午後、高松氏と話してゐる中、同氏がガリオン三つ星の一傳説を語られたのを喜んで、改めて筆を採つて貰つたのが別頁の文です。星は此の世のローマンスの源であります。理窟をぬきにしても、人は星と仲の好い筈のものです。此の種の傳説を今後も喜んで誌上に迎へます。ごなからでも。

事務室にて

「天界」の印刷と發送を大阪へ托することに、本部の事務室には餘力ができました。今全國の十五ヶ所の支部と密接に提携して、新たに會員大募集の宣言を致します。火星の接近を記念として、こゝに一千人の新人を得るまで、會員各自の御勧誘と御宣傳を願ひます。募集用紙や會の規則は御申込次第いくらでも無代進呈。

廣告

特志觀測助手 藤井天文臺のため更に今一人を募る。(前號參照)

京都大學天文臺 山本 一清

大正十一年二月廿四日印刷 (定價二十五錢)
大正十一年二月廿五日發行 (郵稅金五厘)

京都帝國大學天文臺內

編輯兼 發行所 天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者 山本 一清

大阪市西區京町堀通一ノ二六

印刷者 羽尾 武助

大阪市西區京町堀通一ノ二六

印刷所 工業之日本社印刷部

丸善株式會社

賣捌所

岩波書店

東京、京都、大阪、福岡、仙臺、東京神田裏神保町